

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
寄居町	用土	令和3年 3月 3日	令和 3年10月 7日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	345 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	192 ha
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	119 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	24 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	70 ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	7 ha
(備考)	

注1: ③の「〇才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。
 注2: ④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。
 注3: アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。
 注4: プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

若い農業者が減少し、農家の高齢化が深刻化している。 新たな法人等の立ち上げや新規参入者の促進、現在、地域農業の中心となっている担い手が成長・発展するため、担い手の育成が必要である。 新規就農者への支援及び協力を地域ぐるみで推進する。
--

注: 「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

用土地区の農地利用は、中心経営体である認定農業者が担うほか、入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進することにより対応していく。
地域外(町外)から新たに就農を希望する農業者を受け入れていく。

注1: 中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。
 注2: 「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

(参考) 中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
認農	■■■■■	酪農	— ha	酪農	— ha	用土
	■■■■■	露地花木	1.3 ha	露地花木	2.3 ha	用土
認農	■■■■■	水稻 花木鉢物	17.8 ha 8.5 ha	水稻 花木鉢物	20 8.5 ha	用土
認農	■■■■■	植木・苗木	1.3 ha	植木・苗木	1.3 ha	用土
認農	■■■■■	主穀 露地野菜	0.2 ha 0.4 ha	主穀 露地野菜	0.5 ha 0.9 ha	用土
認農	■■■■■	水稻 施設切花 露地花卉他	0.78 ha 0.28 ha 1.2 ha	水稻 施設切花 露地花卉他	0.78 ha 0.28 ha 1.2 ha	用土
認農	■■■■■	鉢物植物	4 ha	鉢物植物	4 ha	用土
認農	■■■■■	酪農	— ha	酪農	— ha	用土
認農	■■■■■	植木・花木	5 ha	植木・花木	2 ha	隣接に限る
	■■■■■	植木・苗木経営	1.3 ha	植木・苗木経営	1.3 ha	用土
認農	■■■■■	鉢物経営	1.4 ha	鉢物経営	1.4 ha	用土
認農	■■■■■	水稻	5.6 ha	水稻	5.6 ha	用土
認農	■■■■■	グランドカバー	3.6 ha	グランドカバー	3.6 ha	用土
認農法	■■■■■	酪農 野菜	— ha 6 ha	酪農 野菜	— ha 10 ha	用土
認農	■■■■■	施設野菜	1.62 ha	施設野菜	1.82 ha	用土
認農	■■■■■	花木・鉢物	2.4 ha	花木・鉢物	2.4 ha	用土
認農	■■■■■	主穀 露地野菜・植木	5.7 ha 1.05 ha	主穀 露地野菜・植木	5.7 ha 1.05 ha	用土
認農	■■■■■	水稻、野菜、花き	2.5 ha	水稻、野菜、花き	2.5 ha	用土
認農	■■■■■	花木	6 ha	花木	6 ha	用土
認農	■■■■■	酪農	— ha	酪農	— ha	用土
認農	■■■■■	花木	6 ha	花木	6 ha	用土
認農	■■■■■	花木・鉢物	3 ha	花木・鉢物	3 ha	用土
認農	■■■■■	花・植木	2.8 ha	花・植木	2.8 ha	用土
認農	■■■■■	水稻 花き・花木	4.5 ha 2 ha	水稻 花き・花木	4.5 ha 2 ha	用土
	■■■■■	花木・鉢物	1.4 ha	花木・鉢物	1.4 ha	用土
	■■■■■	水稻	3 ha	水稻	3 ha	用土
	■■■■■	露地野菜	0 ha	露地野菜	2 ha	用土
認就	■■■■■	ミニトマト、ナス、ピーマン、きゅうり	0.5 ha	ミニトマト、ナス、ピーマン、きゅうり	0.5 ha	用土
計	28 経営体		101 ha		108 ha	

注1:「属性」欄には、個人の認定農業者は「認農」、法人の認定農業者は「認農法」、認定新規就農者は「認就」、法人化や農地集積を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」と記載します。

注2:「今後の農地の引受けの意向」欄については、現状からおおむね5年から10年後の意向を記載します。

注3:「経営面積」欄には、プランの対象地区内における中心経営体の経営面積を記載します。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

<p>農地の貸付け等の意向 貸付け等の意向が確認された農地は、86筆、89,471㎡となっている。</p>
<p>農地中間管理機構の活用方針 地域内において農地中間管理機構の活用を実施しているが、今後も農地中間管理機構の活用を検討し、農地の有効活用を図る。 高齢化や後継者の不足等により増えていく不作付け地については、農地中間管理機構の活用を検討し、認定農業者や規模拡大を考えている農業者へ積極的に活動支援を行い、耕作放棄地の未然防止を図る。</p>
<p>新規・特産化作物の導入方針 米以外の園芸作物の振興</p>
<p>借地期間を10年以上必要とする農家にも道を開く方策を検討する。</p>

(参考) 農地の貸付け等の意向(任意記載事項)

	農地の所在(地番)	貸付け等の区分(㎡)		
		貸付け	作業委託	売渡
1				
2				
3				
4				
5				
6				
	計			

注:農業委員・農地利用最適化推進委員が農地の貸付け等の意向を確認した面積を農地利用最適化交付金の成果実績払いの対象とする場合には、人・農地プランにおいて地番、面積を記載することが必要です。

(留意事項)

本様式をそのまま公表様式として活用する場合には、中心経営体の氏名等特定の個人が識別される情報が含まれることから、本人の同意を得る等個人情報保護条例等に抵触しないよう留意してください。

なお、本人の同意が得られない場合には、その方の氏名を伏せるなど、個人が識別されないよう留意してください。